

◆経済倶楽部講演会第4376回（6月11日）

経済倶楽部設立90周年記念講演

# 石橋湛山首相と日本近現代史

ノンフィクション作家  
保 阪 正 康

- \* 近現代史の節目迎える
- \* 近代国家像の五つの選択肢
- \* 軍主導の帝国主義的国家を歩む
- \* 一貫した理知的言論
- \* 国家のあるべき姿を提示
- \* 次世代への問題提起
- \* 石橋首相の存在価値
- \* 非軍事的空間の可能性
- \* 宗教を政治に絡めない
- \* 忘れられたメディア像



柴生田 それでは開会いたします。

本日は、保阪正康さんにおいでいただきまし  
た。今日は、この経済倶楽部の90周年記念講演  
ということで保阪さんをお願いしております。  
ただ、たいへん残念ながら緊急事態宣言下とい  
うことで、皆さんにはリモートで、動画配信で  
ご覧いただくということになってしまいました。  
保阪さんは、ご存じのように近現代史を中心  
に長年研究と執筆をされてこられてまして、つい  
先ごろ、東洋経済の125周年記念の著作であ  
ります『石橋湛山の65日』という本をお書きに  
なっております。先ほどもちょっと別室でお  
話をしてりましたが、若い世代が石橋湛山と  
いう人をまったく知らないという現実が今ある  
ようにございます。一方では、若い研究者で石

橋湛山の研究をされる方がふえているというこ  
ともございます。やはり戦前、戦中、戦後を通  
じて石橋湛山がどういう存在であり、石橋湛山  
のいろいろ活躍したことの抜け落ちていいる部分  
が日本にはあるのではないかと思うのですが、  
今日はそういうことで石橋湛山を中心に、日本  
の戦前、戦後のことを保阪さんにお話をいただ  
きたいと思っております。

それでは保阪さん、よろしくお願いいたしま  
す。

## 近現代史の節目迎える

保阪 ご紹介いただきました保阪正康と申し  
ます。主に日本近現代史を題材にしながら、日  
本の社会あるいは日本の指導者たち、その素顔